

ごあいさつ

## —『地域未来創生センタージャーナル』第8号の刊行に寄せて—

地域未来創生センター（IRRC=InnovativeRegionalResearchCenter）は、弘前大学特定プロジェクト教育研究センターとして、2014年（平成26年）4月に弘前大学人文学部（現在の人文社会科学部）に設置されて、本年度で8年目を迎えました。

設置以来、当センターは、人文社会科学分野の専門領域に立った教員各人の学問的専門性に依拠しつつ、社会実装をめざして学術研究と社会貢献・地域貢献を一体化させるという明確な意図の下に、ユニークな研究活動を展開してきました。その目的は、地域の関係者の方々の御支援・御協力のもとに進めている地域密着型の多様な学術研究の成果を、地域社会の活性化に役立てることに尽きます。

この度、地域未来創生センターでは、2021年度（令和3年度）の研究成果の一端として、『地域未来創生センタージャーナル』第8号を刊行する運びとなりました。

昨年度より世界的に流行している新型コロナウイルス感染症は、爆発的拡大と小康を繰り返し、いまだ収束していません。混乱が続く中ではっきりしてきたことは、人類はパンデミックをもたらすウイルスとともにあらねばならないということと、今回のコロナ禍の到来は社会コミュニケーションのあり方を著しく変えたということです。後者は、オンラインによる情報伝達の実用性が拡大したことにより、むしろ、リアルな対面コミュニケーションの価値を従来より高めることが可能になったといえるでしょう。これは、地域のとりわけ人材教育分野の可能性を高めています。

このような状況下で、当センターと弘前大学人文社会科学部は、地域の文化的価値を継承し、地域社会の価値のあり方を解明する研究活動を継続してきました。昨年度にひきつづき、海外出張や地域調査の中止、研究成果報告会の縮小によって、実施できなかった研究も多数あります。しかし先を見据えて、可能な研究を追求してきました。私たちは、変化の時代には真に価値あるものの重要性が高まること、従来埋もれていた価値が掘り起こされる傾向があることを確信しています。

幅広い研究者を擁する本学部の特性を活かした、多方面にわたる研究成果の一端を、地域の関係者の方々をはじめとする多くの有識者の方々と共有させていただけたらと考えております。

今後も、人文社会科学部、ならびに地域未来創生センターへのご支援を宜しくお願い申し上げます。

2022年2月1日

弘前大学人文社会科学部長 飯島裕胤